

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600151		
法人名	社会福祉法人帯広太陽福祉会		
事業所名	グループホーム 広野の家		
所在地	帯広市広野町西3線152番地		
自己評価作成日	平成22年 11月25日	評価結果市町村受理日	平成23年1月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194600151&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成22年 12月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の協力会により、ホームの周辺環境が整備され、春には菜園の準備をしていただき、夏～秋にかけては、利用者と一緒に収穫し美味しくいただき、秋には、にわとりやウサギ小屋のハウスの設置で、寒い冬でも外に出て、動物とふれあう楽しみを作ってくれている。毎日、外に出て、散歩、動物の世話が日課となっていて、食事の準備、配膳、片付け等、日常生活をしながら、”自分らしく暮らせる”ように活動的な一日を過ごしている。外出行事も多く、地域の関わりをもち、本人の意思を尊重し、笑って過ごせるように、職員は努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は帯広駅から約40キロ程南に離れた日高山脈の麓で、静かな農村地区にあり、心の安らぎが感じられる。地域の方々との交流も深く、地域の人達からの野菜の提供、ボランティアで事業所周辺の環境整備の手伝い、地域の人達が作った彫り物を入れた長椅子を外に置いて憩いの場として活用、地域の方からウサギ2羽と鶏の雛5羽をもらい受け小型のビニールハウスを作り、利用者の方々が毎日餌をやり、今ではその卵を皆さんで食べている。利用者の表情は明るく、訪問者にも気さくに話しかけるなど和やかな雰囲気です。事業所との絆の深さを感じる。経営母体の太陽園と連携し、利用者の健康管理や終末期対応も整っており、利用者家族との信頼関係も築かれている。職員は内外の研修に積極的に参加している。今後とも他のグループホームの模範と成り、一層の発展を期待している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	"自分の意思で自分らしく暮らす"ことができるように、利用者が主体となったアットホームな家づくりを目指し実践している	理念は事業所内に掲示し、基本方針である「個人の尊厳、自立性、主体性の尊重」を常に意識し、利用者の意思を大切にする理念の実践に努めている。	事業所内にある理念の掲示額を更に大きくし、人目を牽くように改善されることを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の協会の協力により、ホームの畑などの環境等は整備されている。また、地域の保育所、小学校の行事、町内の行事等に参加し交流が図られている	施設内の畑の野菜作り、地域との交流会には多くの利用者が参加し、地域との関係は誠に良く、地域の人に囲まれた施設と言っても過言ではない程恵まれてる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	"いこい"という地域の高齢者との交流会をホーム内、近場のセンターなどで、地域のボランティアと共同で開催している。会食、ゲーム、会話などで交流の場をもっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、ホームの活動報告や地域との連携など具体的な活動に取り組んでいる。今年度は地域の方も交えて避難訓練を実施している	運営推進会議は地域の方(1名)、地域包括センター職員(1名)、家族会(1名)、連合自治会(1名)、地元大学(1名)、計5名で年に6回開催し、事業所の活動等を報告して情報の共有化を図ると共に助言を得るなどサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは現状報告やサービスを行うなかで相談している	管理者は市担当者と様々な機会を通じて情報交換をする中で連携を深めている。市職員は年に2回程事業所を訪問している。又、常に電話のやり取りをして情報を共有し協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が必要になることがないように常に利用者の状態を把握し、活動性を高めて、認知症の進行をできるだけ抑えるケアを考えている	職員は教育が行き届き、身体拘束となる具体的な行為を正しく理解している。夜間は防犯の為に施錠はしているが、日中は安全に配慮しながら自由な暮らしを支えている。	

グループホーム 広野の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加等により、職員の知識向上を図り、虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加している。出席出来ない職員には、会議等で知らせている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項の説明書、運営規程等の説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との信頼関係を作り、利用者の思い、苦情、意見が自由に伝えられる関係に努めている。年2回 家族会を開催し、意見交換の場をもうけている	利用者の思いや意見は日常の会話の中から汲み取っている。利用者の担当職員が常に家族に手紙を送り、家族からの意見等、何でも言える関係を築き、サービスに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の”提案”を取り上げてくれるシステムがある。日常的に申し送り、スタッフ会議等で意見が言える関係作りに努めている	スタッフ会議は1ヶ月に1回開き、職員の気づきを取り入れている。運営方法など事業所に取って大事な決定に関しても職員の意見等を聞き、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の適正を見極め得意分野を生かせるように業務分担したり、研修への参加を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いろいろな研修会に参加し、研修内容は会議等で報告し、研修会に参加できなかった職員も学べるようにしている		

グループホーム 広野の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会への参加をし、各研修会に参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族の見学や面談などで、不安を解消する取り組みを行い、少しでも場の雰囲気馴染めるよう相談しながら工夫している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には状態報告し、家族の思いを聞き職員の思いを伝えている。提供している介護サービスの内容を充分理解していただき、意見を求めやすいように配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用にあたり見学していただくことを原則として、ホームで生活、環境、サービス内容を説明し、納得していただいている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の生活が営まれるように得意分野、役割、意識等に配慮して生き甲斐につながるように、生活全般に配慮している。昔の知恵を伝授してくれることが多く、職員も学ぶことが多い		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診、外出、外泊等の機会をお願いしている。家庭では見えない利用者の行動、表情など密に伝えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の利用者の思いを聞き、住んでいた場所、墓参りなどに個別で出かけている	職員と一緒に墓参りや温泉に行ったりし、利用者の希望の場所に年に2回程行っている。	

グループホーム 広野の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でなじみの関係ができています。外出する際は全員で出かけ、車椅子を押してくれたり、手をとりあって、助け合う関係が築けてきています		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケースがない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの今の気持ちを尊重して、日常の散歩や食事の準備、玄関や共有空間の掃除の手伝いなど本人の希望やペースに沿って支援している	日々の関わりの中で、利用者の行動や表情等から意向や思いを把握している。食事の準備や後片付けも職員と一諸に行い、利用者本位に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族からも生活歴を聞き今までの暮らしを継続できるように努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のペースに合わせながらも生活全般に参加することで、持てる力が発揮でき、達成感、労働の喜びを感じて頂けるような環境をつくっている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が常に利用者の状態を把握し、会議等で職員全員で意見をだし、モニタリングを実施し、チームで取り組むようにしている	日々の関わりの中で気づきや家族からの意見・要望を反映した介護計画が作成されている。	新しい利用者が「乱暴する」、「悪意は無いが他人の部屋に勝手に入る」、「金品が無くなる」などのケースも想定した研修を期待する。現状に馴れ過ぎないように。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日中、夜間とも毎日記録している。介護計画に基づいた記入をすることで、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域に即したホームとして地域住民の協力を仰ぎながら在宅の高齢者との交流を持っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化的な環境にふれることができるように、公共施設、娯楽施設等に外出している		

グループホーム 広野の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医もいるが、本人の希望するかかりつけ医にも診てもらえるように支援している。状況によっては看護師と相談し適切な医療を受けている	かかりつけ医は利用者の希望に応じて対応し、事業所の経営母体の太陽園で1ヶ月に1回検診を受け、太陽園の看護師が週に1回訪問している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問により、状態報告しながら、適切な指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院については医療関係者と連携し、入院が長期にならないように配慮している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明している。重度化しても安心して暮らせるようなホーム作りを目指している	現在は重度化した利用者はいない。重度化や終末期に向けて事業所の方針や具体的内容を文書化し、早い段階で本人や家族に説明している。	安易に終末期の利用者を組織内の別施設に、移管する・・・と言う考え方ではなく、尊厳死についても研修する姿勢を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、緊急時にはすぐに対応できるように、研修会等にも参加している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の緊急時対応マニュアルと緊急連絡網を作成し年2回は避難訓練を実施している。また、近隣の方に地域防災協力員になっていただき、一緒に避難訓練に参加していただいている	地域の方々の協力を得て、年2回災害訓練を実施している。1回目は職員のみで訓練を実施し、2回目は消防署、運営推進委員の方も参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重した声かけや対応に心掛けている。会議等で全職員に意識を徹底している	職員は小さな事でも利用者の気持ちを大切に、誇りやプライバシーを損ねない対応をするよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思をしっかり聞いて、できるだけ本人の希望をかなえられるように努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの今の気持ちを尊重して、日常の散歩や食事の準備、掃除の手伝いなど本人の希望やペースにそって支援している		

グループホーム 広野の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が必要な化粧品、衣服等、職員が代行して購入してきたり、本人と一緒に出かけteおしゃれを楽しんでいる		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは皆さんで楽しみながら作っている。配膳、片付けも手伝っていただいている	利用者と相談しながら献立を作り、能力に応じて盛り付けや後片付けを職員と一緒にしている。職員は利用者と一緒に同じものを食べ、和やかな雰囲気作りに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が減少している時にはチェック表をつけ、食事量の増減を確認している。体重、排泄表をつけ、健康状態を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には必ず、口腔ケアを実施している。入歯の不具合、痛みがある時には、歯科受診をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来る方がほとんどなので、見守り、声かけでトイレで排泄できている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々の状況に応じた排泄の自立支援をしている。見守りの必要な利用者が2入、介助が必要な利用者が4人いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	外に散歩するなど、運動量を増やしている。できるだけ下剤を減らし、定期的な排便を促すように、自然食品(玄米、オリゴ糖等)を使用している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2か所の浴槽を使用し、本人の入りやすい浴槽を選択している。冬季には足が冷たいと訴える方には、足浴を実施している	入浴は週2回で午後の時間帯に入浴支援をしている。入浴を拒みそうな利用者には、職員が早い時間から寄り添って声かけし、納得してもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動的な生活を送ることで安眠の確保を図り、就寝時間まで楽しむことの工夫を図っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は必ず読んで副作用には注意を図っている。また、看護師と相談し、薬の調整も適宜おこなっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	鳥、ウサギの世話をしたり、家事を手伝ってくれたり、できることは毎日、声をかけてやっていただいている。毎日外にでることで気分転換が図られている		

グループホーム 広野の家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天以外は散歩が日課になっている。全員で行事として出かける事も多く、日常、見ない風景をみて楽しまれています。また個人の希望を聞いて個人外出で実施している	夏場はほとんど外に出て職員と野菜作りをしている。飼育しているニワトリやウサギの餌を利用者が与えている。1ヶ月に2~3回は車で外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方にははしていただいたり、買い物等で金銭感覚を失わないようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙で定期的交流したり、電話は訴え時にはかけてもらい、家族との関係を維持できるように配慮している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れるために、しつらえを替えたり花を飾ったり生活感を出している。過ごしやすい環境にするために、時には部屋の模様替えも行っている	食堂と居間は一体的で広く、窓からは明るい日差しと遠近の景色が目に入り、季節を感じることが出来る。ソファでテレビやビデオを楽しむなど、ゆったりと心安らぐ空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にもゆっくり過ごせるスペースがあり、時にはリビングでない場所で利用者同士がおしゃべりしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物は家族と相談し持参していただいている。危険な箇所が発見された場合には、すぐに対応し、安全に生活できるように工夫している	居室には使い慣れた鏡や家具、仏壇を置き、家族の写真を飾るなど、利用者の落ち着いた空間になるように配慮されている。仏壇を持ち込んでいる人が2名おり毎朝お経をあげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりも多く、車椅子の方でも歩行訓練ができるスペースがある		